

金城哲夫の生涯

- 1938年 ●7月5日、東京にて出生 中学までは実家のある沖縄で過ごす
- 1955年 17歳 ●中学卒業と同時に上京し、玉川学園高等部入学生時代から特撮の神様といわれた円谷英二特技監督の主催する円谷特技研究所に参加 東宝の特撮映画等の脚本で知られる関沢新一氏に師事する
- 1961年 23歳 ●玉川大学卒業
- 1962年 24歳 ●TBSのドラマ『純愛』シリーズ「絆」(監督・円谷一)でシナリオ作家デビューをする 一旦帰沖し、沖縄の役者を使って映画『吉屋チルー物語』を自主制作(脚本・監督)する <放送作品> テレビドラマ『純愛シリーズ』「絆」(脚本)…東京放送
- 1963年 25歳 ●4月に正式発足した円谷プロダクションの企画文芸室長となり同プロに在籍しながら、ドラマ『沖繩物語』のパイロット版製作のため帰沖する <放送作品> テレビシリーズ『沖繩物語』三部作の製作(灘千造氏と共同、未放送) <上映作品> 自主映画『吉屋チルー物語』(製作・脚本・監督)…沖縄映画制作所
- 1964年 26歳 ●『いまに見ておれ』の共同脚本などの仕事を手がける(ここで金城は関沢氏の次に脚本の師と仰ぐ生田直親氏と出会い、出演者の青島幸男氏とも懇意になる) ●フジテレビ・円谷プロ共同制作の『WoO』の企画立案に参加。同作品は諸事情で頓挫するも、同年にTBS・円谷プロ制作の『アンバランス』(後の『ウルトラQ』)に円谷プロ側の企画者として参加。脚本も数本手がける <放送作品> テレビドラマ『月曜日の男』『ペン先のレクイエム(鎮魂歌)』(脚本)…東京放送 テレビドラマ『こんなにあえて』(生田直親氏と共同脚本)…東京放送 テレビ映画『いまに見ておれ』シリーズ(脚本)…東京放送、国際放映
- 1966年 28歳 ●1月に『ウルトラQ』放映後、『ウルトラマン』の企画・脚本、『快獣ブースカ』の構成・脚本、松竹版『泣いてたまるか』の脚本他、シードドラマの脚本を担当、当時のバラエティ番組にもゲスト出演した <放送作品> テレビ映画『ウルトラQ』(脚本)…東京放送、円谷プロ テレビ映画『ウルトラマン』(脚本)…東京放送、円谷プロ <放送作品> テレビ映画『泣いてたまるか』『翼あれれば』(脚本)…東京放送、松竹テレビ部 テレビ映画『快獣ブースカ』(脚本)…日本テレビ、円谷プロ、東宝 テレビ映画『ウルトラセブン』(脚本)…東京放送、円谷プロ <放送作品> テレビ映画『マイティジャック』『爆破指令』(脚本)…フジテレビ、円谷プロ テレビ映画『戦え!マイティジャック』(脚本)…フジテレビ、円谷プロ テレビ映画『怪奇大作戦』(脚本、主題歌作詞)…東京放送、円谷プロ
- 1969年 31歳 ●円谷プロを退社して、故郷に戻った金城哲夫は、実家の勤続き料亭を手伝いながら若き尚巴志を主人公にした『佐敷の暴れん坊』をはじめとした数本の沖縄芝居の脚本を執筆した。また、琉球放送(RBC)にて、ラジオやテレビ番組の構成も担当し同時にキャスターとしても活躍した <上演作品> 沖縄芝居『佐敷の暴れん坊』(脚本、演出)…那覇劇場(初演) <放送作品> テレビ映画『帰ってきたウルトラマン』『毒ガキ怪獣出現』(脚本)…東京放送、円谷プロ <上演作品> 沖縄芝居『一人豊見城』(脚本、演出)…那覇市民会館(初演) <上演作品> 沖縄芝居『治気賢ハリー異聞』(脚本、演出)…琉球新報ホール(初演) <上演作品> 沖縄芝居『風雲琉球処分前夜』(脚本、演出)…琉球新報ホール(初演)
- 1970年 32歳 ●沖縄のラジオ番組の司会に多数出演の他ラジオドラマの脚本も手掛ける。また、東宝映画用のノンブシを共同執筆した(実現せず)
- 1971年 33歳 ●テレビドラマ『走れ!ケ-100』(C.A.L製作)「沖縄の巻三部作」の現地コーディネーターおよび出演した <上演作品> 沖縄芝居『虎!北へ走る』(脚本、演出)…琉球新報ホール(初演)
- 1972年 34歳 ●東宝より依頼を受けて、沖縄国際海洋博覧会の式典の演出や沖縄館で上映される映画にも携わり、広報としてテレビ番組『11PM』などへも出演した <上演作品> 沖縄芝居『王女(うみないび)の恋』(脚本)…那覇市民会館(初演) <上映作品> 沖縄海洋博・沖縄館映画『かりゆしの島沖縄』(監督/吉田憲二、脚本/助監督・金城)
- 1973年 35歳 ●26日、不慮の事故にて37歳の若さで世界。内地でも当時の新聞やテレビ雑誌にて報じられ、日本中のファンから、その早過ぎる死が惜しまれた。
- 2006年 <放送作品> ハイビジョンテレビ映画『生物彗星WoO』(円谷英二と共同にての原案)…NHK、円谷プロ

金城哲夫資料館

金城の生家である南風原町の料亭「松風苑」では、金城の書斎を資料館として希望者に公開しています。



金城の生家である南風原町の料亭「松風苑」

資料館には、当時、金城が使っていた机・書籍・資料等が残されていて、執筆に打ち込んでいた金城の姿がしのばれるようになっています。

机の上には、関係者やファンからの贈り物、沢山のウルトラマンや怪獣のフィギュアが置かれています。

円谷プロ時代の台本や帰郷後の沖縄芝居の資料等も展示され、壁には、特撮ファンならおなじみの俳優・スタッフのサインがずらりと並んでいます。かつてウルトラマンシリーズを共に制作した多くの仲間が資料館を訪れて、早すぎた金城の死を悼みました。



「松風苑」敷地内の書斎



「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」認定!

認定プレートと御朱印スタンプが、松風苑のカウンターに設置されています。金城哲夫資料館を訪れた記念に、是非、ご朱印を押してみてください☆



【見学申し込みについて】

常時公開はしていないので、あらかじめ電話で予約をお願いします。生家のご好意で保存され、ファンのために公開されている施設なので、失礼のないようマナーを守ってご見学ください。

お問合せ

金城哲夫資料館(松風苑)
TEL.098-889-3471

営業時間

11:30~17:00(要予約)
【定休日】年末年始

料金

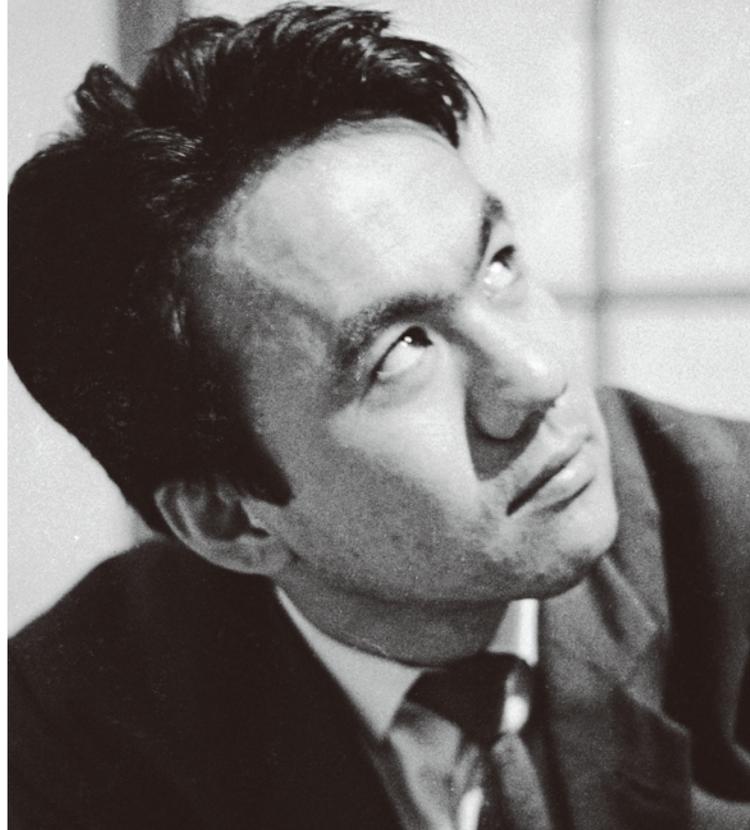
無料

駐車場

35台収容/大型バス可



※那覇空港より約20分



脚本家 金城哲夫

きん じょう てつ お

知ってた? ウルトラマン を創った南風原人がいた事を!

は え ば る ん ち ゅ

発行 / 一般社団法人 南風原町観光協会 (2019年)
沖縄県島尻郡南風原町字本部158
098-851-7273・FAX:098-851-7109
メール / chiiki-machidukuri@haebaru-kankou.jp
HP / https://www.haebaru-kankou.jp/
協力 / 松風苑、(株)円谷プロダクション
金城哲夫研究会、(学)玉川学園、
(一社)アニメツurisズム協会、
ウルトラマンの脚本家 金城哲夫のふるさと
南風原町住民会議



ウルトラマン ©円谷プロ

